

東 久延 議員

(一問一答方式)



- ①令和5年度当初予算
- ②大洲市民文化会館建設
- ③大洲市立幼稚園・保育所再編計画
- ④長浜港小型船だまり

令和5年度当初予算について

問 令和5年度の予算編成方針をどのように考えているか。

答 特に、SDGsを推進し、誰もが幸せを実感できるウェルビーイングなまちを目指す取組を加速させ、デジタル技術も活用したアフターコロナの視点、国の動向や地域経済、社会環境の変化に的確に対応しながら地域課題の解決に取り組んでいくための予算を編成する方針で、具体的には、4つの施策を重点事業として位置づけます。

1つ目は、DXの推進です。デジタル技術も活用し、市民生活の利便性の向上と行政の効率化を図ります。

2つ目は、健康づくりと健康寿命の延伸です。健康で心豊かな生活を営むことができる地域を目指し、生きがいを創出していく取組が重要です。

3つ目は、少子化対策です。保育、子育てサービスの充実や子育て世代が暮らしやすい環境整備、教育環境の充実など、取り組むべき施策を検討します。

4つ目は、肱川の治水対策と肱川を活用したまちづくりです。

これらの4つの重点事業を柱として、優先度の高い事業から取り組んでいく考えです。

大洲市民文化会館建設について

問 市民文化会館建設についてどう考えているか。

答 市民文化会館の果たすべき役割については、子供や高齢者が集い交流できる地域のにぎわい創出や活性化につながるまちづくりの拠点施設にしなければならないと考えています。

そのためには、設計段階において交流スペースの

位置づけをはじめ、完成後の施設運営のあり方、文化芸術などの魅力的な事業展開を図っていくソフト面の対策に加えて、それらに関連するノウハウ等が重要となるので、基本設計、実施設計に合わせて検討を進める考えです。

さらに、防災への配慮として、11月24日公告の大洲市民文化会館新築工事設計業務公募型プロポーザルにおいて、防災機能に対する考え方についても提案を受けることとしています。

具体的な防災機能の充実については、総合福祉センターをはじめ近隣の公共施設等との役割分担も考慮しながら、災害発生時に多面的に活用可能で地域防災力の向上に資する施設となるよう検討します。

未永く愛される施設となるよう、令和11年度の開館を目指して建設を推進します。

長浜港小型船だまりについて

問 水産業の振興拠点として期待しているが、市としてどう考えているか。

答 長浜港小型船だまりは、港湾管理者である愛媛県により、小型船が利用するための施設として昭和59年から整備が始められ、令和4年度末には概ね完成する見込みです。

本市では、令和2年度から漁業関連施設の整備を進めており、これまでに水産センターや荷さばき所、道路や水道の整備を終え、今年度船揚げ場や給油施設の整備、浮き桟橋の設置工事を進めています。

これにより、小型船だまりで漁業活動が始められる施設整備が完了することから、令和5年度から漁船の移転に向け、現在漁業者並びに長浜町漁業協同組合と協議を進めています。

市としても、小型船だまりが水産振興の拠点となり、漁業者や組合の活発な事業活動につながるのと同時に、長浜地域全体の振興が図られるものと考えています。



長浜港小型船だまり